

門真市の地理について

■ 地理

- 大阪府の東北部に位置
- 北に淀川、東に生駒山、西に広がる大阪湾に囲まれた河内平野のほぼ中央に位置
- 市域は東西 4.9km、南北 4.3km、面積は 12.30 km²
- 大阪市（鶴見区）、守口市、寝屋川市及び大東市の 4 市に隣接
- 市内には京阪電車の西三荘、門真市、古川橋、大和田、萱島駅、地下鉄長堀鶴見緑地線の門真南駅、西部には大阪モノレール門真市駅と 7 つの駅が存在
- 幹線道路網として、市内の中央部を国道 163 号が東西に横断し、西部を南北に府道大阪中央環状線や近畿自動車道が縦断、さらに、南西から北東にかけて第二京阪道路が整備されている
- 主要道路には、京阪バス・近鉄バスによる路線バス網が張りめぐらされている
- 東大阪工業地帯の重要な地位を占めている
- 大阪モノレールの延伸、阪神高速淀川左岸線の延伸が予定されている

門真市の歴史について

■ 先史・古代

- 平成元（1989）年、市の西部「西三荘遺跡」の発掘調査で発見された縄文時代後期の土器により、約 3500 年前から人々の暮らしが営まれてきたことが明らかになった。
- 市の東部「大和田遺跡」では昭和 38（1963）年、弥生時代の銅鐸^{どうたたく}3 個が出土。市の南部「三ツ島遺跡」では昭和 37（1962）年、全長 10 メートルを超える巨大な「くり舟」も見つかり、門真市域がかなり古くから発達してきたことがうかがわれる。
- 「古事記」「日本書紀」には仁徳天皇が低湿地帯であった本市域周辺を淀川の氾濫から守るため「茨田堤」を渡来人に築かせたと記されており、これにより農耕文化が急速に発展した。

■ 中世・近世

- 中世には、平安時代後期からは、河内 8 カ所に大和田庄・馬伏庄・岸和田庄などの荘園が寺社領として経営され、現在の地名が出現
- 茨田の堤の完成後、低湿地が徐々に開拓され、鎌倉・室町時代にもなると河内平野中央部の最も低湿な池沼地を除いて、農地が開墾され、豊かな水郷農村として近世集落が形成され、「段蔵」「バツタリ」などの人々の知恵と工夫が生み出された。
- 江戸時代には古川の流れも定まり、京や大阪に近い立地の重要性から市内の約 8 割以上が天領となり、直接江戸幕府の支配を受けた。
- 江戸時代後期には菜種や木綿の栽培でも発展を遂げ、蓮根栽培も活発になった。

■ 近代・現代

- 明治維新後、「加賀蓮」「備中蓮」の導入によって蓮根栽培はその最盛期を迎え、全国的に「河内蓮根」の名が広まっていき、蓮根の他にも慈姑の栽培も盛んになっていった。市内の一部では現在も蓮根の栽培は行われている。
- 明治 43（1910）年、京阪電車の開通で門真の様子は一変。道路の整備とも相まって工場などの誘致が進んで産業が発展
- 昭和 8（1933）年には松下電気器具製作所が誘致され、世界的な大企業に躍進するとともに、下請・関連工場も増加した。
- 昭和 38（1963）年 8 月、人口 6 万 6582 人をもって市制を施行。大阪府

内で 27 番目の市として発足

- 昭和 35（1960）年から昭和 45（1970）年にかけて、高度経済成長における自然増及び門真市を含む大阪市の周辺都市における転入超過により急激な伸びを示し、昭和 40（1965）年の国勢調査では、人口増加率が約 180 %という全国一の数値を記録
- 昭和 48（1973）年に「門真市民憲章」を制定し、人間の尊厳と住民の自治の確立に向けて取り組むことを宣言
- 平成 9（1997）年には地下鉄長堀鶴見緑地線（門真南駅）、大阪モノレール（門真市駅）が乗り入れ